

HPVワクチンについて知ってください

～あなたと関係のある“がん”があります～

ウイルス感染でおこる子宮頸^{けい}がん

「がんってたばこでなるんでしょ？」「オトナがなるものだから私は関係ない」って思っていないですか？

実はウイルスの感染がきっかけでおこる“がん”もあります。その1つに子宮頸がんがあります。

HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が原因と考えられています。

このウイルスは、**女性の多くが“一生に一度は感染する”**といわれるウイルスです※。

感染しても、ほとんどの人ではウイルスが自然に消えますが、**一部の人でがんになってしまう**ことがあります。

現在、感染した後にどのような人ががんになるのかわかっていないため、

感染を防ぐことががんにならないための手段です。

※HPVは一度でも性的接触の経験があればだれでも感染する可能性があります。

女性の多くがHPV(ヒトパピローマウイルス)に
“一生に一度は感染する”といわれる

がんになる場合も

感染を防ぐことが
がんにならないための手段

<何人くらいが子宮頸がんになるの？>

日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんになり、毎年、約2,900人の女性が亡くなっています。

患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。

<一生のうち子宮頸がんになる人>

1万人あたり132人

2クラスに1人くらい

<子宮頸がん で亡くなる人>

1万人あたり34人

10クラスに1人くらい

つまりこれってどのくらい？



子宮頸がん^{けい}で苦しまないために、できることが2つあります

① 今からできること

日本では、小学校6年～高校1年相当の女の子を対象に、
子宮頸がんの原因となるHPVの感染を防ぐ

ワクチンの接種を提供しています。

HPVの感染を防ぐことで、

将来の子宮頸がんを予防できると

期待されています。

カナダ、イギリス、オーストラリアなどでは

女の子の**約8割**がワクチンを受けています。



② 20歳になったらできること

HPVワクチンを受けていても、
子宮頸がん検診は必要です。

2年に1度

**検診を受けることが
大切**です。



HPVワクチンの 効果

HPVの中には子宮頸がんをおこしやすい種類のものがあります。HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮頸がんの原因の**50～70%を防ぎます**※。

また、HPVワクチンで、がんになる手前の状態(前がん病変)が減るとともに、がんそのものを予防する効果があることも分かっています。 ※ワクチンで防げる種類のHPVが、子宮頸がんの原因の50～70%を占めます。

HPVワクチンの リスク

多くの方に、接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。

筋肉注射という方法の注射で、インフルエンザの予防接種等と比べて、痛みが強いと感じる方もいます。

ワクチンの接種を受けた後に、まれですが、重い症状※1が起こることがあります。

また、広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動※2といった多様な症状が報告されています。

ワクチンが原因となったものかどうかわからないものをふくめて、接種後に重篤な症状※3として報告があったのは、**ワクチンを受けた1万人あたり約6人です。**

ワクチンを合計3回接種しますが、1回目、2回目に気になる症状が現れたら、**それ以降の接種をやめることができます。**

接種後に気になる症状が出たときは、まずはお医者さんや周りの大人に相談してください※4。

- ※1 重いアレルギー症状(呼吸困難やじんましんなど)や神経系の症状(手足の力が入りにくい、頭痛・嘔吐・意識の低下)
- ※2 動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまうこと
- ※3 重篤な症状には、入院相当以上の症状などがふくまれています。報告した医師や企業の判断によるため、必ずしも重篤でないものも重篤として報告されることがあります。
- ※4 HPV ワクチン接種後に生じた症状の診療を行う協力医療機関をお住まいの都道府県ごとに設置しています。



HPVワクチンについて知ってください

すべてのワクチンの接種には、効果とリスクとがあります。まずは、子宮頸がんとHPVワクチン、子宮頸がん検診について知ってください。周りの人とお話ししてみたり、かかりつけ医などに相談することもできます。

HPVワクチンを受けることを希望する場合

小学校6年～高校1年相当の女の子は、3種類のHPVワクチンを公費で受けられます※。

病院や診療所で相談し、いずれかのワクチンを接種します。

ワクチンの種類によって接種の間隔が少し異なりますが、いずれも半年～1年の間に3回接種を受けます。

接種には、保護者の方の同意が必要です。

※定期の期間を過ぎると、自己負担での接種になります。



※1 1回目と2回目の接種は少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。

※2・3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)あけます。

※4・5 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の1か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※4)、3回目は1回目から5か月以上、2回目から2か月半以上(※5)あけます。

HPVワクチンについて、もっと詳しく知りたい方

厚労省 HPV

